

お祝いにかえて 2025 春

京都芸術大学及び大学院の新入生のみなさま、保護者並びに関係者のみなさま、姉妹校である、東北芸術工科大学を代表いたしまして、お喜びを申し上げます。

山形からスピーチに参じるつもりでしたが、あいにく飛行機のややこしい故障で、ギリギリまで待ってみたものの、飛んではくれませんでした。

きっと会場では、尊敬する先輩でもあり、大好きな同志でもある新学長の佐藤卓さんから素敵なスピーチがあったことでしょう。

今はもう、混乱する山形空港から、同じく参列が叶わなかった本学理事長で映画監督の根岸吉太郎とともに、みなさまの幸運をお祈りするしかできません。代わりに、テキストによるお祝いコメントとはなりますが、新入生のみなさんに届けば幸いです。

私が会場でみなさんにお伝えしたかったことは、「センスや才能」とは、どういうものか？ということについてです。

一般的に「センスや才能」というものは、ある人にはあって、ない人にはないとされています。みなさんには、センスはありますか？才能はありますか？

そもそも「センスや才能」というものは、あるとか、ないとか、生まれ持ってあるものなのか、そういうものではないみたいです。さらに、それは芸術大学に入ったからといって身につくものでもなさそうです。私はたくさんのジャンルの本物の人たちに出会ってきて、そう確信しています。

「センスや才能」とは、その人本人が見てきたあらゆるもの、本気で感じてきたものを溜め込み続け、必要な時にそれらを組み合わせて引き出す力なのだと思います。

「センスや才能」に溢れている人は、常に顔をあげて、周囲を見渡しています。いろんな場所に出かけて、いつも動いています。決して下を向いて、好きな世界に逃げ込んで、自分の顔を、自分という沼の中にどっぷり埋めてはいません。

感覚的な記憶力を鍛え、収集のために行動することができ、それらを編集する技術のアレンジできる人、それが「センスや才能」のある人だと思います。

「センスや才能」がないと思ったら、まずは、あなたがきちんと感じていないか、動けていないのです。日頃からうつむいていないか？感じる日々をサボっていないか？を、真っ先に疑ってみるといいでしょう。

「センスや才能」を磨くための近道は、できるだけ自分とは違う種類の人にたくさん会うことです。学内なら違う専門領域に仲間を作る。いろんな場所に旅をして人に会う、恋をしたり、別れたり、喧嘩したり、本気で泣いたり、思い切り笑ったりしてみましょう。その度に、あなたの「センスや才能」のゲージが上がってくれます。

食わず嫌いもいけません。とりあえずなんでも食べて、口に合わなければ、たくさん吐けばいいのです。そうやって、誰よりも感情のゲージをいっぱいに使って、汗臭く、唾液と涙に濡れながら、べちゃべちゃになって生きる。

クリエイティブに生きるということは、感じないふりをして、スカしていることではありません。いつか何かを成し遂げたら、インタビューか何かで、涼しい顔をしてカッコつけばいいのです。今はその時ではありません。

あなたが京都芸術大学でやることは、ほぼそれだけです。

ただ、どんなに顔をあげて、動き回っても、クリエイティブの発信側に立つということは、かなり孤独です。時々作ることや発信することに疲れたら、休んで欲しいのですが、そんな時も、感じることは止めてはいけません。

弱っている時に思いついたり、感じたことは、意外と拾いモノです。悲しい時には感情の毛穴が開いています。そんな時こそドローイングをしたりメモを取ると、あとで有効に使えたりします。

結局、大学が教えてくれる技術的なもののほとんどは、アウトプットの方法とバリエーションです。あなたの引き出しの中が空っぽのままだと、せっかく学んだ技術も、絵の具も、アプリも機能できないのです。4年間、精一杯感じたことで、あなたの引き出しをパンパンにしてください。

最後に、これから数年、みなさんが感じ続ける場所は、ここ京都です。この「K・Y・O・T・O」という街の名前、これは世界のどこでも通用し、誰もが知っています。ここ京都で学生時代を過ごしたことは、将来確実に自慢できます。うらやましいです。この世界都市「京都」から、世界はどう見えるのでしょうか。

おまけにもうすぐ「大阪万博」も始まりますね。幸運なことに、みなさんの学生時代のスタートに合わせるかのように（きっともう二度と日本には来ないであろう）、「万博」が開催されるのです。大きなイベントですから、当然いろいろな批判が見受けられますが、まだ誰も見たこともないままに批判しているだけです。みなさんはクリエイティブの発信する側なので、ちゃんと自分の目で見て、自分の評価と意見を持つべきです。

もしもチャンスがあれば、交流プログラムなどを利用して、東北芸術工科大学にも来てください。山形にも、引き出しをパンパンにした自慢の学生たちが沢山いますよ。

あらためまして、ご入学おめでとうございます。みなさんの幸運をお祈りしています。

東北芸術工科大学 学長 中山ダイスケ